

今の時間を未来の僕に

そこで、「うん、なかなか、いいぞ。」と自己満足して、教室に入る。すると、八時三十五分のベルが鳴る。

三時間目の後は昼食だ。

一番乗りで食堂に行けるタイミングなら急いで、階段降りて、食堂へ急ぐが、そうでないとは、逆に、十二時五分迄は、教室で黒板に落書きしたりしている。そして、食堂のすいたところを見はからって、食べに行く。

丁度、食べ終わった頃に、すぐ奥田の笛がなる。そのまま中庭へ行き集合し、整列入場で教室へ入る。

三時に授業が終わり、二十二分のバス。
四時すぎ帰宅、つまみ食い、マンガ、勉強。
六時ごろゴックリ、十時目覚めてポンヤリ。
十一時、また眠る、今度は、朝まで。
たるんだ一日だった。

今のこの暇な時間を箱に入れて、未来の僕にあげたいと思う。

自分の寿命が少なくなった時、歳をとって、よぼよぼになった時、その時、バイオリンを弾いて、音楽を楽しみながら、余生を過ごしている、おじいさんになった僕がいる。

この今の時間を、その時に補充する為に、若い頃の僕が現れて、「一時間でも長生きして下さい」と、時間の入った箱を、歳とった僕に、手渡す姿を想像する。